

★ ————— ☆  
 星 の 文 藝 欄  
 ☆ ————— ★

詩 3 篇

東 京 稻 垣 武 五

深 夜 の 月 蝕

冬仕度の幾人かは刑事に似た眼球を半圓の焦點に向ける。蝕れ行く光源には縊死と奴隷賣買との感觸がある。曆と觀測帖とが赤色光線に照らされる。星達は窓を開き街の建築は影に溺れる。腦病院の看護婦たちは戦時警備についた。

やがて向日葵が解放されると空欄の日記がそれにつゞき見物は曲馬に似た豫定の安心をする。

渦 状 星 雲

このメリーゴーラウンド  
 澤山あるから君の徽章にし給へ  
 もしかすると  
 爆<sup>へび</sup>ながら逃げて行くかも知れぬ  
 切抜帖に貼るなら  
 微分方程式論を常食とし給へ

赤 道 儀

天邪鬼め  
 上半身を反對に廻轉する  
 熱中し出すと  
 星達を凝視しつゞける  
  
 硝子張の玄關で  
 光はきまつた2度の敬禮をし  
 客間で巨人になつてしまふ